

2

トピックス

TOPIC.1 環境関連受賞

第21回環境コミュニケーション大賞受賞 ～環境配慮促進法特定事業者賞～

本学は、環境コミュニケーション大賞★[環境報告書部門]“環境配慮促進法特定事業者賞”を受賞しました。

講評では、『環境マネジメントが詳述されており、環境目標に基づく具体的な取り組みの達成度が詳細に開示されている。加えて、大学のコアコンピテンスである知の生産に焦点があてられており、国立大学法人として全体的に非常に完成度の高い環境報告書である。一方で、数値目標の設定によって管理されている取り組みがやや少なく、結果として定性的な記述が多い点があるため、これら

の改善が今後望まれる。』と評価を頂き、5年連続9回目の受賞となりました。

平成30年2月21日、品川プリンスホテルメインタワーにおいて表彰式が開催され、「環境報告書」の作成に携わった環境ISO学生委員会の学生、大学関係者が出席し、全員で受賞を喜びました。



環境ISO学生委員会と関係者(H30.02.21)



表彰式(H30.02.21)

第3回サステイナブルキャンパス賞 建築・設備部門受賞



本学は、平成29年11月17日に愛媛大学にて開催された、サステイナブル★キャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)2017年次大会において、スマートキャンパスの取り組みが評価され、「第3回 サステイナブルキャンパス賞 建築・設備部門」を受賞しました。

サステイナブルキャンパス賞とは、サステイナブルキャンパス推進協議会会員による優れたサステイナブルキャンパス構築に係る取組事例を表彰制度によって顕彰し、会員の意識を高めると共に、協議会の活動を推進し加速させ、持続可能な環境配慮型社会の構築に貢献することを目的に平成27年度から始まった表彰制度です。

表彰は3部門に分かれ、「第1部門:キャンパスのサステイナビリティに配慮した建築・設備部門」「第2部門:キャンパスのサステイナビリティに配慮した大学運営部門」

「第3部門:キャンパスのサステイナビリティに配慮した学生生活・地域連携部門」のうち、本学は第1部門を受賞しました。



受賞大学の集合写真(H29.11.17)



増えるのかなど、ご意見を聞かせて下さい。

▶ 池口：空調機の設定温度などは、学生は皆意識をしてい



池口 佳奈子
環境ISO学生委員会
第12期副委員長(院生)

てすごくいいなと思います
が、本学の環境活動について
知っている学生は少ないと思
います。研究室で今日の座
談会に参加することを話し
た際に、環境報告書を知っ
ている学生が一人も居なく
て、すごくショックでした。授
業の先生、指導教員、研究
室の先生から直接環境報告
書を配布するとか「三重大
学は環境に配慮している大
学なんだよ」と直接呼びか
けることが大事ではないか
と思います。

▶ 立花：高校生は、受験時に大学を選びます。高校生が環

境を学ぶのは社会科の地理学と地学ですので、本学が本
気で環境のことをやっていくなれば、地理と地学を入試
で必修にするんです。センター試験で地理と地学を取っ
ていけばちょっとプラスするとか、それは無理にしても、そ
れを促進する仕掛けを作ればいいと思います。そういう
高校生に本学に来て環境ISO学生委員会に入ってもら
い、活動してもらおう。

▶ 池口：活動している頃に、環境に関する知識が少ない
学生が多く、どうしたら知識面を補うことができるのか
をよく話していたので、入学の時点でそういう受験や制
度があると、すごくいいなと思います。

▶ 学長：なるほど、面白い意見が出ましたね。

▶ 金子：環境マインドを育てる
のが重要だと思います。先日、
講義が終わった後、最後に退
出する学生が自然に教室を
消灯して帰って行きました。
そういうところが昔は無かつ
たのですが、いろいろと言っ
ていると、徐々にそういう学
生が出てきましたので、その
時はもう、涙が出るほど嬉し
かった。



金子 聡
大学院工学研究科・工学部
教授

▶ 加納：環境活動の実施はMIEUポイントの成果でしょう
かね。

▶ 金子：環境マインドを育てていけば、規模は小さくても
集まれば大きなパーセンテージになりますので、教育を
含めしっかりやっていくことが重要だと思います。

▶ 坂本：社会における家庭のエネルギー消費の割合は約
2割です。工場、工業生産、運輸や建物など、我々の生産、
消費、流通活動で約8割のCO₂を排出しているので、その
仕組みを教える必要がある。大量生産、大量消費の社会
を根本的に変える時期にきています。CO₂排出量を削減
する社会を考える教育をしないとイケない。

▶ 加納：生産者から最終の廃棄までのライフサイクルア
セスメント★という捉え方があります。そういう部分の教育
も非常に重要です。

■ これからの取り組み

▶ 学長：大学としての方針は「何年度に何%削減する」で
は無く「こういうことを実施して、何%削減を目標とする」
としたい。まずは学生が環境マインドをどれだけ持っている
のか、アンケート調査をして下さい。

▶ 加納：目標とする数値をどう捉えるか、中期目標、さら
には2050年までの長期目標について検討していく必要
があると思いますが、その点いかがでしょうか。

▶ 学長：数値を決めるとしても、いきなり26%や40%と
言ってもよく分からないので、教職員、学生の皆さんが理
解できる、数値だけではない目標を設定したいですね。三
重大学のあるべき姿は、大木がたくさんあり、波の音がよ
く聞こえるとか、そういう目標です。

▶ 立花：皇居は森の中にあり東京で一番涼しいです。さら
に気象庁の本庁は皇居のすぐ横にあるので、気象庁の気温
は東京の代表地よりもかなり低いです。このようにはつき
りした事例もあるので、平山先生の森に沈む大学、大賛成
です。長期ビジョンにすると、他大学とも差別化できます。

▶ 学長：取り組むべき事柄に取り組む。達成値の多い少な
いにかかわらず、たとえCO₂削減の成果が0.1%でも
0.2%でも絶えず取り組むことが大事です。例えば太陽光
パネル1,200枚つというは無理でも、20枚ぐらいいは設
置するとか、木を剪定しないとかね。そんなことでも一つ
の方針になるので、無視できない。アンケート調査を今年
度中に実施してデータをオープンし、問題点を洗い出し
て、できれば解決方法も考えて頂きたい。

▶ 加納：かなり活発なご意見を頂きました。今後の取り組
みとして、まず学生に対するアンケート調査を実施し、その
結果を踏まえ、フォアキャスト、バックキャストを融合させ
ながら中長期の目標を設定していこうと思
います。本日はありがとうございました。

▶ 学長：実質的な議論ができたと思います。

▶ 全員：どうもありがとうございました。